

信仰の人は幸いである マタイ5:1~12 / 李正雨師

先週の水曜日、私は飯能教会の2022年の統計を教団に報告しました。一人が転入してきて、一人が転籍して、一人が洗礼を受けました。神様の守りの下で悲しみよりは喜びがより多かった一年でした。神様に感謝いたします。2020年に始まったコロナの影響は、教会の礼拝と集会までも影響を与えました。それによって信徒の数が減るのだという恐れがあり、実際に全国的な教会の信徒の数は減少しました。日本だけでなく韓国でも信徒の数が減り、30%以上減った教会もあると聞きました。コロナが企業だけでなく教会にも大きな影響を与えたのです。しかし、コロナがなかったとしても、教会の勢力が減っていくのだということは、以前から予見されてきました。ある瞬間から信徒の数は増えず、教会に通っていた信徒の方々は、神様から召され始めました。私たちは信仰の者なので、信仰の中で神様が教会の未来を導いてくださるのだと期待していますが、理性的に考えてみると、私たちの未来は明るくはありません。教会と信徒はさらに減少し、世界は教会のことをますます受け入れなくなるのです。人々は、イエス様の教えよりは世界の教えに従い、教会はこの闘いに勝てなくなるでしょう。そして私たちは、このような世界で生きながら、信仰を守り、教会を維持し、福音を伝えなければなりません。本当に難しい状況が私たちの前に置かれているのです。

今日の福音書は、このような状況の中で生きている私たちのクリスチャンに必要な箇所だと思います。私たちが何を見て進まなければならないのか？何を心の中に刻み、何を伝えなければならないのかを教えてください。私たちが必ず持っているべき考えと教え。これをイエス様は慰めの言葉と共に私たちに伝えてくださいます。今日の福音書はこう始まります。1節の言葉です。「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。」イエス様は群衆を見て山に登られます。ここで群衆とは、イエス様について来た人々であり、彼らはユダヤだけでなく、ユダヤを巡った地域から来た人々です。今日の福音書の前の節であるマタイによる福音書4章25節には、彼らがガリラヤ、デカポリス、ユダヤ、ヨルダン川の向こうから来たと書かれています。彼らはイエス様の評判を聞いて集まった人々として、イエス様のことが必要な人々でした。イエス様はこの群衆を見て、山に登られました。そして弟子たちにこう言われます。「幸いである。」

私たちが持っている聖書では「心の貧しい人々は、幸いである」と翻訳されていますが、原文では「幸いである」という言葉が先に出てきます。それで、原文に近く翻訳したらこのようになるでしょう。「幸いである。心の貧しい人は、その人たちのものである。天の国は。」皆様はいかがですか。もう少しインパクトがある言葉として聞こえて来ませんか。ところが、ここで「幸いである」という言葉の意味がかなり面白いのです。この言葉をギリシャ語で「マカリオス (μακάριος)」と言いますが、これは、幸いだけでなく幸運、外見的な繁栄の意味も持っている言葉です。今日の福音書でイエス様に従っていた人々を一度ご覧ください。彼らは、イエス様の癒しが必要なほど、肉体的にも精神的にも困難な人々です。病気になった人々であり、悩みや悪霊に取りつかれた人々です。外見的に繁栄した人、幸運をつかんだ人とは言えない人々です。しかし、イエス様は彼らに「幸いである、マカリオス」と言われます。なぜイエス様はこう言われたのでしょうか。彼らが持っているどんな条件や環境も、繁栄と幸運とは合わないのに、なぜ彼らは幸いであると言われたのでしょうか。

先週の水曜日、聖書の分かち合いのことです。聖書の分かち合いは、いつもその主日の説教原稿を持って、行っています。先週の福音書の中で、「死の陰の地に住む者に光がさし込んだ」という言葉がありました。これは、イエス様に対する旧約聖書の預言者、イザヤの預言でした。それで、私は分かち合いに集まった人々に、「なぜ死の陰の地に住む者に光がさし込んだと聖書は語っているのでしょうか」と尋ねました。この言葉はたとえとして、「死の地」は異邦地域を、「陰に住む者」は異邦人を示すことです。つまり、イエ

ス様はユダヤ人だけではなく、すべての人のためにこの世に来られたという意味です。それで私は、このような答えが出てくるのを待っていました。ところが、集まった方の一人がこう言われました。「神様は、慰めの神様なので、死の陰の地に住む者にも光を照らして下さったのだと思います。」この答えは、私が待っていた答えではありませんでした。しかし、私はこの答えに大きな感動を受けました。「そうだ。私たちの神様はこんな神様だ。誰にでも、死の陰の地に住む者にも、慰めを与えてくださる神様なのだ」ということをもう一度悟りました。

死の陰の地に住む人々にまで、関心を払う人はいないでしょう。みんなが無視して、心の中で軽蔑しているかもしれません。彼らが死の地に住むのは、それなりの理由があるのだと思います。しかし、神様はそうではありません。皆が指を差しても、神様はそうしません。むしろ彼らのことをかばって、彼らを慰められます。彼らも神の子であり、子どもである彼らがこの世から無視されているからです。5年前のことです。うちの長男が幼稚園で同級生から無視されたことがありました。外国人だという理由でした。もちろん、幼稚園園児同士のことだったので、何とか理解しましたが、心の中では腹が立ち、しばらくは落ち着きませんでした。なぜ神様は、死の陰の地に住む人々に関心を払っておられるのでしょうか。なぜイエス様は、病人と悪霊に取りつかれた人と、悩む人を癒されたのでしょうか。私は、彼らが弱者であり、疎外された人々だったからだと思います。彼らには神様の助けが必要だったからです。それでイエス様は、今日の福音書での彼らが幸いであると言われます。彼らが神様の関心を受けているからです。

弟子たちはこれを悟らなければなりません。イエス様がなぜ幸いであると言われたのか、彼らに何が与えられるのかを知らなければなりません。今日の福音書3節から10節までは、8つの幸いと幸いな人々について書かれています。これをいわゆる真福八端(しんぷくはつたん)と言いますが、この言葉が示しているのは、祝福の種類やタイプを言うのではないと思います。神様の祝福の基準は、この世のものとは違うということを示しています。この世は、お金持ちに天国のような生活を与えるかもしれませんが、本当の天国は心の貧しい人に与えられるのです。この世のすべての人には憐みがありますが、真の慰めはイエス様に従っている人々に与えられるのです。イエス様によって柔和な人になり、義に飢え渴く人になり、憐れみ深くなり、心の清い人になり、平和を実現する人になり、義のために迫害される人は、幸いです。このすべてのことがイエス様に従うことによって起こることだからです。

私は今日の説教のタイトルを「信仰の人は幸いである」、つまり私たちは幸いであると決めました。私たちはイエス様に従っており、これによって私たちには、あの8つの祝福が与えられています。しかし、私たちが受けた祝福は、みんなが羨ましい祝福ではないと思います。おそらく信仰のない人々は、こんな祝福は要らないと思うでしょう。この世の基準の祝福とは違い、外見的な繁栄や富もついて来ないからです。しかし、この祝福は無駄なものではありません。この祝福は、私たちにこの世が与えられないものをもたらすのです。本物の天国と真の慰め、柔和と義、憐れみと平和などを私たちに持ってくるのです。そして、これを通して私たちは、別の世界を経験することになるのです。この世がすべてではないことを、この世の喜びが真の喜びではないことが分かるようになるのです。

今の私たちの状況と未来は、楽観的ではありません。教会の状況は、ますます難しくなっていて、この世はますます私たちを追い出しています。それにもかかわらず、私たちが喜ぶことができるのは、イエス様がこのような私たちに「幸いである」と言われたからです。死の陰の地に住む者に神様の関心が与えられたように、私たちにも神様の愛と慰めが与えられるのです。これを心に刻んでください。「幸いである」と言われたイエス様の言葉を覚え、これを伝えて教えてください。12節の言葉のように、皆様には、天の大きな報いが与えられるのです。神様の守りと慰めが難しい状況の中でも、信仰を持って生きている皆様と共にありますように。私たちの教会が幸いな教会になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン